



# 災害に備える

## 職員用

このマニュアルは、大規模地震等の災害が発生した場合の対応として、職員のみなさんが日頃注意すること、災害時にどのような行動をとればよいかをまとめたものです。なお、各附属学校の職員については、当該学校の防災マニュアルに従って下さい。

### ①災害時の行動の流れ

#### ②日頃の注意事項

#### ③緊急地震速報を受信したら

#### ④大規模地震が発生したら

#### ⑤揺れが収まった後の対応

#### ⑥避難場所マップ（小金井地区）

#### ⑦家族への連絡方法

#### ⑧帰宅の判断

#### ⑨大学に安否報告

#### ⑩休日等の勤務時間外の対応

#### ⑪教員の災害発生時の初動マニュアル

#### ⑫本人情報

### ②日頃の注意事項

- 避難経路や避難場所を確認する。(大学及び自宅)
- 消火器、屋内消火栓の設置場所や使用方法を確認する。
- 避難経路や火気設備器具周辺に荷物を置かない。
- 災害時の家族や大学との連絡方法を決めておく。
- 帰宅ルート及び所要時間を確認しておく。
- 防災訓練に積極的に参加する。

このマニュアルは本学HP(「非常時への対応」に掲載)からプリントアウトできるので、ご家族にも事前にお伝え下さい。  
( <http://www.u-gakugei.ac.jp/emergency/> )

災害時等において、本学HPが断続的に閲覧できなくなった場合には、臨時公式HPや東京学芸大学公式 Twitter を利用して重要な情報を発信します。

- 臨時公式 HP  
( <https://sites.google.com/site/gakugeiweb/> )
- 東京学芸大学公式Twitter  
( <https://twitter.com/TokyoGakugei> )

緊急時の大学への連絡先  
042- 329- 7138 (正門守衛所)

### ③緊急地震速報を受信したら

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中ものが飛び出しそうなものから離れる。
- ドアを開け、出入口を確保する。
- 「上から落ちてこない、横から倒れてこない」安全な場所に身を寄せろ。
- 火を使用していた場合にはすばやく火を消す。

### ④大規模地震が発生したら

#### 【自身の安全を守ることを第一に考えること】

- あわてて戸外に飛び出さない。
- 窓や棚、ガラスなど割れたり中ものが飛び出しそうなものから離れ、「上から落ちてこない、横から倒れてこない」安全な場所に身を寄せ、揺れが収まるまで様子を見る。
- 屋外では、建物から離れ、落下物や倒壊物の危険のない安全な場所にしゃがんで揺れが収まるまで様子を見る。

### ⑤揺れが収まった後の対応

- 揺れが収まった後も、余震に備え、警戒する。
- 火災等の2次災害の発生を防ぐ。
- なるべく一人では行動せず、複数で行動する。
- 余震が収まり、安全に行動可能と判断した場合
  - 1) 教員は、授業等で指導している学生を避難場所(総合グラウンド)まで誘導し保護する。
  - 2) 災害対策本部員及び防災隊員は、災害対策本部(噴水広場の正門側)に参集し、それぞれの任務にあたる。
  - 3) 上記以外の者は、避難場所へ避難し、必要に応じて、災害対策本部及び防災隊に協力する。
- 学内避難場所等において、所属長あるいは安否確認担当者に安否を報告する。

### ⑧帰宅の判断

- 災害対策本部の指示があるまでは、必要に応じて、災害対策本部及び防災隊に協力して、学内の保全に当たる。
- 余震等が収まり、状況が安定した後に、災害対策本部から帰宅の指示があった場合には、以下の事項を踏まえて、帰宅するかどうか、自分自身で判断する。

- ・交通機関の運行状況、停電の有無、その他周辺地域に関する災害情報について、テレビ、ラジオ、信頼できるニュースサイト等で正確な情報を得てから、帰宅するかどうかを判断する。
- ・災害時に徒歩で帰宅できる目安としては、道路上の混雑の状況によるが、10km未満は帰宅可能、10km以上20km未満は状況次第、20km以上は帰宅困難とされている。
- ・日没後の行動は危険。日没の時間も考慮して、判断する。
- ・状況が流動的で安全が確保できない場合は、無理に帰宅しない。

- 帰宅できない場合  
引き続き、災害対策本部及び防災隊に協力して、学内の保全に当たる。

### ⑦家族への連絡方法

**NTT災害用伝言ダイヤル(伝言を録音・再生)**  
地震など大災害発生時に、電話がつながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。  
※事前に家族同士で使用方法等について確認しておきましょう。毎月1日及び15日に体験利用ができます。

**■利用方法** (171をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行って下さい。)

#### <主な流れ>

171 ※電話を掛けるとガイダンスが流れます。

- 伝言を録音する場合<1>
- 伝言を再生する場合<2>

●自宅の電話番号などを登録  
(市外局番から入力)  
○○○-○○○-○○○

●相手の登録した電話番号を入力  
(市外局番から入力)  
○○○-○○○-○○○

- 録音の開始<1#>
- 再生の開始<1#>

※利用可能な端末 加入電話、公衆電話、携帯電話等(詳細はNTTのHPで確認して下さい。)  
※登録できる電話番号は災害によりかかりにくくなっている地域の電話番号となります。携帯電話の電話番号は登録できません。  
※171をダイヤルし、災害用伝言ダイヤルに接続された後、一部の通信機器では、その後に「1」や「2」のPB信号を送出するため特別な操作(「#」等のボタン操作)をする必要があります。

**携帯各社の災害用伝言板(伝言を文字で残す)**  
地震などの大災害発生時に、携帯電話から文字で伝言を残し、安否情報を登録・確認できるサービス。  
※事前に家族同士で使用方法等について確認しておきましょう。

#### ■災害用伝言板へのアクセス方法

- 携帯各社のサイトトップ画面に開設される、「災害用伝言板」に入る。
  - ※登録されたメッセージは、携帯電話のほか、インターネットを通じてPCなどから確認することができます。
- 下記のアドレスを打ち込む方法により、「災害用伝言板」の使用方法について確認することができます。

- NTTドコモ : <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au : <http://dengon.esweb.ne.jp/>
- ソフトバンク : <http://dengon.softbank.ne.jp/J>

災害時のみ利用可能

<平成28年3月現在>

### ⑫本人情報

.....

氏名 .....

所属 .....

住所 .....

電話番号(自宅) .....

生年月日 .....

血液型 .....

持病・アレルギー .....

服用薬 .....

**自宅以外の緊急連絡先**

氏名・続柄 .....

住所 .....

電話番号 .....

.....

